

南三陸を支える人たちの声



佐藤 幸美さん  
山形県酒田市在住

**防** 災ネットワークのつながりから  
救済物資を輸送するようになっ  
た佐藤幸美さん。福興市が開催され  
ると福興市を通じての支援へと変わり、今  
日も活動されています。

「支援するきっかけは、全国各地の商  
店街で組織する防災ネットワーク『ほう  
さい朝市』のつながり(志津川おさかな  
通り商店街)が参加でした。防災ネット  
ワークの中で酒田市が南三陸町に近  
かったことから救済物資を集め輸送の  
拠点となりました。3月18日から物資  
の輸送を開始し、数日おきに運搬して  
きました。」

4月末には第1回目となる福興市が  
できたので、支援はそつちにシフトして  
いきます。当初は、酒田市・中通り商店  
街の4〜5人で参加していましたが、商  
店街の枠を越え市民も参加してくれる  
ようになりました」

「南三陸は人が良いから応援したく  
なります。行けば温かく迎えてくれる  
し、おもてなしがよい。福興市から帰る  
際には万歳三唱をして送ってくれたこ  
ともありました。そういった人柄に触れ  
たくて来ている。福興市のつながりか  
ら酒田の祭りに南三陸から参加して  
くれるようになりました。行ったり来た  
りという相互間、気持ちが嬉しいし、温  
かいのがいいですね」



福興市の出店回数は60回超え

南三陸を支える人たちの声



星野 由梨さん  
東京都板橋区在住

**大** 正大学4年生の星野由梨さん  
は、1年生の頃から南三陸町を  
訪れ、訪問回数は10回を超える。南三陸  
町での支援の内容を大学や個人の  
SNSで発信。現在は大学卒業を目的  
前にして、南三陸の観光ガイドブックの  
作成に取り組んでいる。

「南三陸と関わるようになったのは、  
私大ネットのプログラムに参加したこ  
とがきっかけ。その後、追悼式の受け付  
けや入谷宵祭りでも上映する映像撮影な  
ど行ってきました。そして、南三陸のこ  
とを多くの人に知ってもらいたいため、  
学生ツアーの企画募集も行いました。」

ツアーの最終課題は観光ブックの製作  
で各班訪問先で取材してもらいページ  
をまとめました。大学生による大学生  
のための観光ブックなので、学生が必ず  
南三陸へ来てくれることを期待して  
います」

「南三陸を応援したいと思うのは  
「人が一番の理由です。出会う人出会う  
人が魅力的。皆が精力的であり、協力的  
でもある。他のメンバーもまた来たい。  
この人を応援したい」と言っています。私  
の大学生活は南三陸町が中心というこ  
も過言ではないと思います」



1年生の時には追悼式の受け付けを行った

南三陸を支える人たちの声



及川 和芳さん  
登米市在住

**登** 米市で飲食店を営む及川和芳  
さん。年に数回、南三陸町へ寄附  
金を直接お持ちになり、これまでの寄  
附回数は二十数回を数えます。

「私は松崎和子さんに比べれば付け  
たしのようなもの。できれば松崎さん  
を取材してほしい」と話す及川  
さん。松崎さんとは、横浜市在住で及川  
さんの遠戚に当たる人です。

「震災後、松崎さんを南三陸に連れて  
行き惨状を見せました。そこから松崎  
さんに頼まれ寄附金を持っていくよう  
になったのです。横浜の人が私に寄附を  
託してくれる。私はこれでいいのかと自

分自身に対する反省があったし、過酷  
な状況の中で苦しんでいる人がいる  
中、これでもいいのかという思いもありま  
した。なので、松崎さんの寄附を持って  
いくのに併せ、同額を寄附しようと始  
めたのです。遠くの松崎さんが7年間  
忘れずに寄附をよこしてくれる。その  
気持ちを考えると本当にありがたいな  
と思うし、私も生活を切り詰めてでも  
同額は出させていたいただきましょうと  
やってきただけの話です。これからも町  
の復興状況を見ながら役場に行きたい  
と思っています」



写真右:和芳さんの奥さん  
寄附を持っていく時は必ず夫婦一緒に

南三陸を支える人たちの声



デンカ株式会社さん  
東京都中央区

**南** 三陸応援団に団体として登録し  
活動を続けるデンカ株式会社  
さん。震災直後から、これまでの活動回  
数は77回。参加人数は延べ750人を数え  
ます。がれきの片づけや津波を被ったお  
宅での家財整理、そのほかにも農業支援  
や漁業支援に携わっています。

「私たちが活動を始めたのは2011年  
の7月でした。東京本社と東北支店か  
らボランティアを募り、2泊3日の日程

で参加しています。この2〜3年は新入  
社員教育の一環として社員を連れてき  
て、南三陸でボランティア活動をして  
います。そういった意味では広がりを見せ  
ています」

「ボランティア活動を続けてきて、南  
三陸でデンカってなんとなく認知度が  
上がったなと感じており、メリットが  
あったと思っています。それに南三陸で  
のボランティア活動によって、熊本地震  
のときには社員が自発的にボランティ  
アをやるという意識が生まれました。  
ここでの活動が凄く生きているなと  
思っています。熊本地震であったり、新潟  
の糸魚川の火事であったり、そういった  
気持ちが発的に生まれてくる。この  
活動が象徴的だなと感じています」



これからも南三陸を応援していきたい